

高知県感染症発生動向調査（週報）

2025年 第15週 （4月7日～4月13日）

★県内での感染症発生状況

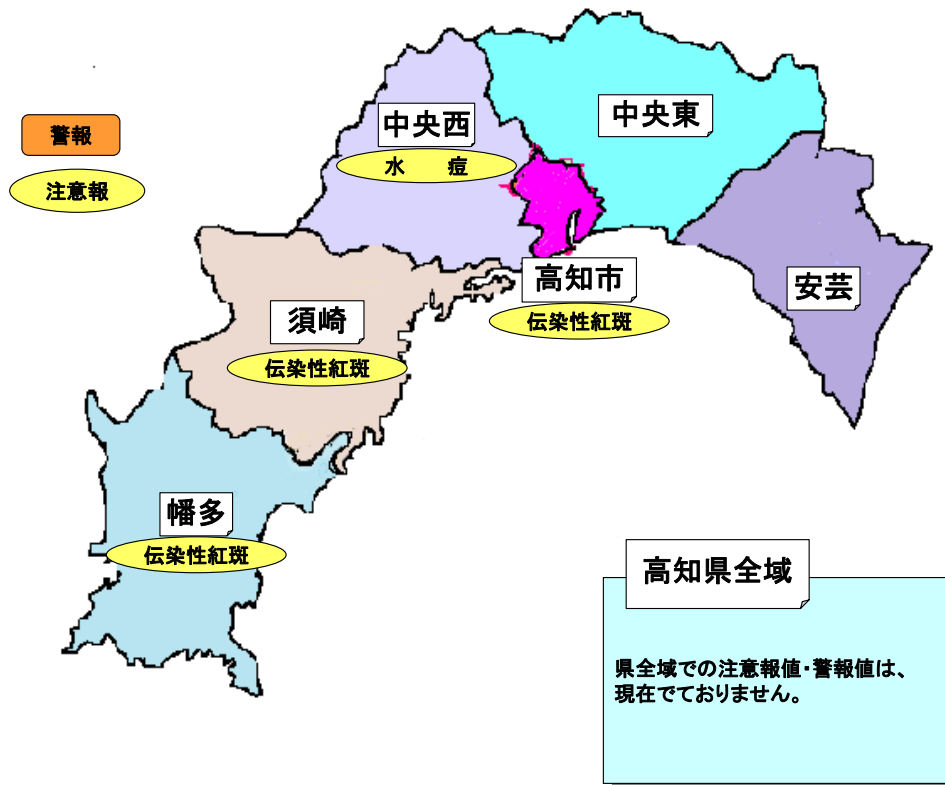
急性呼吸器感染症及び小児科定点把握感染症（上位5疾患）

疾病名	推移	定点当たり 報告数	保健所管内別の傾向
感染性胃腸炎	→	4.05	中央東、中央西、安芸で急減しています。
A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	↗	2.35	中央東で急増、中央西、高知市で増加していますが、須崎で減少しています。
新型コロナウイルス感 染症	↘	1.95	中央西、幡多で増加していますが、須崎、安芸で急減、中央東、高知市で減少しています。
RSウイルス感染症	→	1.20	須崎で急増していますが、中央西で急減、高知市で減少しています。
伝染性紅斑	↑	0.80	高知市、幡多、中央東で急増、須崎で増加していますが、中央西で急減しています。

<推移の基準>

急増	↑	前週と比較し、2倍以上の場合	減少	↘	前週と比較し、0.5倍以上～0.8倍未満の場合
増加	↗	前週と比較し、1.2倍以上～2倍未満の場合	急減	↓	前週と比較し、0.5倍未満の場合
横ばい	→	前週と比較し、0.8倍以上～1.2倍未満の場合			

★地域別警報・注意報状況



★週報の発行日

週報は、毎週「木曜日」の午後3時30分以降に発行します。

ただし、「火曜日」「水曜日」「木曜日」が祝日の場合は、「金曜日」になります。

★気になる感染症

百日咳

2025 年 2 月に入って百日咳の発生届が増加し、今週だけで 23 件、現在 141 件（2025 年 1 月 1 日から 4 月 16 日までの累計速報値）となっています。年齢別では 10～14 歳が 65%と最も多くなっています。

また、本年 3 月に県内で確認された症例について県衛生環境研究所において検査したところ、治療薬であるマクロライド系抗菌剤に耐性を示す百日咳菌であることが判明しました。

このような状況を受け、県では病原体定点医療機関等の協力により百日咳患者の検体を収集し、耐性菌等の検査を実施することとしました。

年間報告数

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
高知県	33	3	9	7	5	141
全国	2,819	707	491	1,000	4,093	7,034

年齢別・保健所管内別報告数

年齢 保健所	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20歳以上	総計
中央東	1	1	1	2	1	6
高知市	8	8	63	11	6	96
中央西		1	1		1	3
須崎		7	27	2		36
総計	9	17	92	15	8	141

症状

- ① 通常 7～10 日の潜伏期を経て、通常風邪症状となり、次第に咳の回数が増え、程度も激しくなります（カタル期）。
- ② 短い咳が連続的に起こり（スタッカート）、続いて息を吸う時に笛の音のようなヒューという音が出ます（ウープ）。このような咳嗽発作が繰り返すことをレプリーゼといい、しばしば嘔吐を伴います（痙攣期）。
- ③ 激しい発作は次第に減衰し、2～3 週間で認められなくなりますが、その後、時折発作性の咳が出て、全経過約 2～3 ヶ月で回復します（回復期）。

感染力が強く、咳やくしゃみなどによる飛沫や接触により感染します。乳児の場合、無呼吸発作など重篤になることがあり、生後 6 か月未満では死に至る危険の高い疾患です。成人では、咳は長期間続きますが、比較的軽い症状で経過することが多く、受診・診断が遅れることがあります。患者や百日咳にかかったと気づかない大人から、重症化しやすいワクチン未接種の新生児や乳児へ感染することもあるので注意してください。

●予防方法

- * 人混みはなるべくさけ、外出時にはマスクを着用しましょう。帰宅時には、手洗いを励行しましょう。
- * 定期予防接種があります。ワクチンは生後 2 ヶ月から接種可能なので、かかりつけ医と相談し、出来るだけ早く受けておくことをお勧めします。

●学校感染症

百日咳は、学校保健安全法（同法施行規則第 18・19 条）では、学校感染症（第 2 種）に位置づけられており、「特有の咳が消失するまで又は 5 日間の適切な抗菌薬療法が終了するまで」出席停止とされています。ただし、病状により感染の恐れがないと認められたときはこの限りではありません。

ダニの感染症(SFTS・日本紅斑熱)

今年初めて高知市から「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」の発生届がありました。

「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」や「日本紅斑熱」は、屋外に生息する比較的大型（吸血前で3～4mm）の「マダニ」が媒介する感染症です。

マダニは、暖くなる春から秋にかけて活動が活発になります。この時期は、人も農作業やレジャーなど野外での活動が多くなることから、マダニが媒介する感染症のリスクが高まります。（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

また、ネコやイヌなどの動物が感染、発症した場合、その血液や唾液などの体液に直接触れることで感染する可能性があります。ペットの健康状態の変化に注意し、体調不良の際には、咬まれたり舐められたりしないように注意してください。必要な場合は動物病院を受診しましょう。また、ペットがマダニに咬まれないようダニ駆除剤を使用することも有効ですので獣医師に相談しましょう。

●予防方法

- *マダニに「咬まれないようにする」ことが予防策になります。
- *野山や畑などに出る時には、長袖・長ズボンで肌の露出を避けましょう。
- *飼っているネコやイヌが外で咬まれることもあります。ブラッシング等をこまめにしてマダニを持ち込まないようにしましょう。
- *体調不良のペットに触れたときは、手洗いを心がけてください。

●発熱等の症状が出た場合

- *野山に入って数日～数週間経過した後、発熱等の症状が出た場合は、医療機関を受診してください。
- *受診の際は、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれた可能性）を伝えてください。

●参考

- *重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts_qa.html
- *高知県衛生環境研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット
<https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2024022700074/>

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
2 類	結 核	1	16	0～4 歳 男性	中央東
4 類	重症熱性血小板減少症候群	1	1	80 歳代 女性	高知市
5 類	後天性免疫不全症候群	1	1	40 歳代 男性	中央東
	梅 毒	1	14	30 歳代 女性	高知市
	百日咳	1	117	0～4 歳 男性	中央東
		1		10～14 歳 男性	
		1		0～4 歳 男性	高知市
		1		5～9 歳 男性	
		6		10～14 歳 男性	
		7		10～14 歳 女性	
		1		15～19 歳 男性	
		1		20 歳代 女性	
		1		40 歳代 男性	
		1		70 歳代 女性	
		1		5～9 歳 女性	中央西
		1		10～14 歳 男性	

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
15	インフルエンザ様疾患	38℃, 咳嗽, 気管支炎	1	女	高知市	Respiratory syncytial virus B Adenovirus NT
15	伝染性紅斑	発疹	5	男	須崎	Human herpes virus 7 human parvovirus B19
15	伝染性紅斑	発疹	6	男	須崎	human parvovirus B19 Human herpes virus 7
15	インフルエンザ様疾患	39℃, 咳嗽, 上気道炎	3	女	高知市	Human metapneumovirus
15	インフルエンザ	40℃, 腹痛, 鼻汁	5	男	須崎	Influenza virus B/Victoria
15	—	39℃, 下痢, 嘔吐, 腹痛	18	女	高知市	Norovirus GII NT
15	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐	5	女	須崎	Norovirus GII NT
15	感染性胃腸炎	嘔吐	4	男	須崎	Norovirus GII NT
15	—	38℃, 嘔吐, 腹痛	4	男	幡多	Norovirus GII NT
15	—	39℃, 下気道炎	2	男	高知市	Rhinovirus
15	—	39℃, 下痢, 嘔吐, 腹痛	18	女	高知市	Sapovirus genogroup unknown

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情 報
中央東	早明浦病院小児科	アデノウイルス感染性胃腸炎 1 例 (4 歳男) ノロウイルス感染性胃腸炎 1 例 (11 歳女)
	JA 高知病院小児科	hMPV 感染症 2 例 溶連菌感染症 5 例 アデノウイルス咽頭炎 3 例 インフルエンザ A 型 2 例 B 型 2 例 COVID-19 3 例 ノロウイルス胃腸炎 1 例 伝染性紅斑 1 例 流行性耳下腺炎 1 例 百日咳 1 例 14 週 マイコプラズマ (Lamp 法) 2 例
高知市	けら小児科・アレルギー科	百日咳 6 例 (Lamp 法) (12 歳 3 人、13 歳 3 人) hMPV 感染症 5 例 マイコプラズマ肺炎 1 例 (12 歳) RS ウイルス感染症 5 例 インフルエンザ A 型 1 例 B 型 2 例 ノロウイルス腸炎 7 例 ロタウイルス腸炎 2 例
	福井小児科・内科・循環器科	伝染性紅斑 4 例 COVID-19 2 例 RS ウイルス感染症 1 例 溶連菌感染症 1 例
	ふないキッズクリニック	アデノウイルス結膜炎 1 例 (1 歳女) hMPV 感染症 1 例 (4 歳男)
	細木病院小児科	hMPV 感染症 1 例 (1 歳男) hMPV 感染症+COVID-19 合併症 1 例 (1 歳男) インフルエンザ B 型+溶連菌感染症 1 例 (12 歳男) 百日咳 1 例 (10 歳男) 感染性胃腸炎 10 例 インフルエンザ A 型 1 例 COVID-19 1 例

保健所	医療機関	情 報
中央西	くぼたこどもクリニック	ムンプス 1 例（7 歳男：県外から帰省）
	日高クリニック	EB ウイルス感染症 1 例（21 歳女） マイコプラズマ肺炎 1 例（13 歳男） マイコプラズマ気管支炎 1 例（8 歳男） 带状疱疹 1 例（15 歳女）
須 崎	もりはた小児科	hMPV 感染症 2 例（3 歳） RSV 1 例（8 か月） COVID-19 1 例（家族内感染） インフルエンザ B 型 4 例 百日咳 3 例
幡 多	こいけクリニック	百日咳 3 例（1 歳女、9 歳女、12 歳男） hMPV 肺炎 1 例（5 か月男） アデノウイルス扁桃腺炎 1 例（4 歳女）
	幡多けんみん病院小児科	hMPV 2 例（1 か月男、2 歳女）

★注目すべき感染症

麻しん

2025 年第 1～13 週（2025 年 4 月 2 日現在）

麻しんは高熱、全身の発疹、カタル症状を特徴とし、空気感染・飛沫感染・接触感染を感染経路とする感染力の非常に強いウイルス感染症である。乳幼児が麻しんに罹患した時に合併することが多い麻しん肺炎、麻しん患者 1,000～2,000 人に一人の割合で合併する麻しん脳炎は麻しんによる 2 大死亡原因である。また、主に乳児期に麻しんに罹患・回復した後、平均 7 年の期間を経て、重篤な亜急性硬化性全脳炎（subacute sclerosing panencephalitis：SSPE）を発症することがある。麻しんに対する特異的な治療法はなく対症療法が中心となるが、事前に予防接種を受けることで、麻しんを予防することができる。日本は現在、2015 年 3 月に国際的に認証された、国内における麻しんの排除状態、を維持すること〔麻しんに関する特定感染症予防指針（平成 19 年厚生労働省告示第 442 号）〕を麻しん対策の目標にしている。本稿は、主に感染症発生動向調査に基づく国内の麻しんの疫学状況に関する直近の情報を提供することを目的としてまとめたものである。

2025 年第 1～13 週に診断された麻しんの報告数（2025 年 4 月 2 日現在）は 58 例であり、2020～2024 年における各年の報告数を上回った。直近で最も報告数の多かった 2019 年（第 1～13 週で 378 例）以降は、新型コロナウイルス感染症の流行もあり低調であったが、本年は第 8 週から増加傾向にあった。週ごとの報告数は、第 4 週、第 5 週、第 6 週で各 1 例、第 8 週で 3 例、第 9 週で 4 例、第 10 週で 12 例、第 11 週で 14 例、第 12 週、第 13 週で各 11 例となっている。

報告された 58 例のうち、届出に必要な病原体診断を満たした検査診断例が 57 例（98%）、うち、届出に必要な臨床症状の 3 つ（発疹、発熱、カタル症状）すべてを満たす「麻しん（検査診断例）」が 50 例、届出に必要な臨床 3 症状のうち、1 つないし 2 つを満たす「修飾麻しん（検査診断例）」が 7 例であった。また、検査結果からは麻しんと診断されなかったが届出に必要な臨床 3 症状すべてを満たす「麻しん（臨床診断例）」が 1 例（2%）あった。性別では男性 32 例、女性 26 例であり、年齢中央値は 26 歳（範囲 0～73 歳）であった。19 都府県から報告があり、都道府県別の報告数は、東京都、神奈川県、大阪府、兵庫県で各 7 例、埼玉県で 5 例、千葉県、愛知県、山口県、福岡県で各 3 例、岐阜県、奈良県、岡山県で各 2 例、宮城県、茨城県、栃木県、群馬県、静岡県、滋賀県、京都府で各 1 例であった。推定感染地域は国内が 18 例（うち都道府県不明 3 例）、国外が 33 例（ベトナム 25 例、タイ 3 例、フィリピン 2 例、パキスタン 1 例、オランダ/ノルウェー 1 例、イタリア/フランス 1 例）、国内・国外不明が 7 例であった。医療機関や保健所等により収集されたワクチン接種歴の情報については、接種歴なしが 17 例（29%）、1 回が 10 例（17%）、2 回が 12 例（21%）、不明が 19 例（33%）であった。2 回接種歴ありの 12 例のうち 11 例は検査診断例（麻しん：9 例、修飾麻しん：2 例）で、1 例は臨床診断例であった。接種歴なしの 17 例はすべて検査診断例（麻しん：16 例、修飾麻しん：1 例）であった。

また、2025 年 4 月 2 日現在、上記の 58 例のうち 30 例から検出された麻しんウイルスの情報が病原体検出情報に報告されており、遺伝子型の内訳は B3 型 25 例（83%）、D8 型 4 例（13%）、不明 1 例（3%）であった。

現在、ベトナムをはじめとする海外で麻しんの流行が報告されており、日本では海外渡航歴のある輸入症例の報告が増加している。渡航先での麻しん感染と日本への麻しんの持ち込みを防ぐためには、海外渡航予定者においては渡航先の流行状況や予防接種歴を確認の上、必要に応じてワクチン接種を受けることが推奨される。

国内における感染拡大の防止のためには、個々の予防と集団免疫の維持のための麻しん風しん混合(MR)ワクチンの2回の定期接種の徹底が最も重要である。加えて、感染者の早期探知と迅速な対応も欠かせない。接触者への二次感染事例も確認されているため、麻しん患者の適切な診断、1例でも報告された時点で各関係機関の協力のもとで行う迅速な接触者調査と対応、地域の医療機関への情報伝達と住民に対する予防のための啓発が重要である。特に事例が広域となるおそれのある場合の各関係自治体間の情報共有は重要である。

麻しん患者の報告がある地域や海外渡航者を診察する可能性のある医療機関においては、院内感染対策のさらなる徹底が重要である。事務職員等を含む病院関係者全員へのワクチン接種歴・罹患歴の調査や、必要に応じたワクチン接種が求められる。また、麻しん患者との接触のある者が発熱などの体調不良を自覚した場合には、二次感染防止のため、麻しんの可能性があることを事前に医療機関に電話で伝え、可能な限り公共交通機関の利用を避けた上で受診することが重要である。

麻しんは空気感染するため、手指消毒やマスクのみでは予防することができない。さらに感染力が非常に強く、発熱が出現する前から感染性があることから、1例の麻しん患者から感染が拡大した事例も見られる。このため、今後も患者の発生が続く可能性があると考えられる。麻しんの感染拡大を防ぐためには、発生時の迅速な対応だけでなく、定期接種の対象年齢である1歳児および小学校入学前1年間の幼児におけるMRワクチンの2回接種の徹底が重要である。麻しんに罹患したことがなく予防接種を受けたことのない者についても、かかりつけの医師にワクチン接種について相談することが推奨される。

本年4月13日に開幕する大阪・関西万国博覧会は国内外から多くの人々が集まる国際的マスコガザリングイベントであり、感染症の発生リスクが増加することが予想される。特に混雑した空間で不特定多数と接する機会が想定されるので、予防接種歴の確認が推奨される。

(国立健康危機管理研究機構IDWR2025年第13号より)

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生環境研究所）

〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1 高知県保健衛生総合庁舎2階

TEL：088-821-4961 FAX：088-821-4696

※この情報に記載のデータは2025年4月16日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合は、週報上にて訂正させていただきます。

★高知県感染症情報

疾病別・地域別報告数

高知県感染症情報（49定点医療機関）

第15週 令和7年4月7日（月）～令和7年4月13日（日）

高知県衛生環境研究所

定点名 (定点数)	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前 週	全国（14週）	高知県（15週末累計） R6/12/30～R7/4/13	全国（14週末累計） R6/12/30～R7/4/6
急性呼吸器 感染症 (38)	急性呼吸器感染症(ARI)*	50	248	397	143	53	149	1,040（ 27.37 ）			1,040（ 27.37 ）	
	インフルエンザ	3	7	9		5	2	26（ 0.68 ）	30（ 0.70 ）	5,667（ 1.20 ）	7,664（ 201.68 ）	586,667（ 120.79 ）
	新型コロナウイルス 感染症	1	11	19	21	7	15	74（ 1.95 ）	122（ 2.84 ）	10,132（ 2.14 ）	3,663（ 96.39 ）	324,544（ 66.82 ）
小児科 (20)	咽 頭 結 膜 炎		1	1		1		3（ 0.15 ）	4（ 0.17 ）	750（ 0.25 ）	54（ 2.70 ）	11,576（ 3.76 ）
	A群溶血性レンサ球菌 咽 頭 炎		7	23	7	2	8	47（ 2.35 ）	38（ 1.58 ）	5,148（ 1.71 ）	775（ 38.75 ）	87,681（ 28.47 ）
	感 染 性 胃 腸 炎		9	39	2	9	22	81（ 4.05 ）	117（ 4.88 ）	19,251（ 6.41 ）	1,702（ 85.10 ）	323,282（ 104.96 ）
	水 疱			3	2			5（ 0.25 ）	5（ 0.21 ）	815（ 0.27 ）	46（ 2.30 ）	11,074（ 3.60 ）
	手 足 口 病			1				1（ 0.05 ）	1（ 0.04 ）	115（ 0.04 ）	38（ 1.90 ）	3,256（ 1.06 ）
	伝 染 性 紅 斑		2	8		3	3	16（ 0.80 ）	7（ 0.29 ）	1,889（ 0.63 ）	274（ 13.70 ）	30,489（ 9.90 ）
	突 発 性 発 疹							（ ）	1（ 0.04 ）	648（ 0.22 ）	58（ 2.90 ）	8,110（ 2.63 ）
	ヘルパンギーナ							（ ）	（ ）	27（ 0.01 ）	1（ 0.05 ）	380（ 0.12 ）
	流行性耳下腺炎		1		1			2（ 0.10 ）	2（ 0.08 ）	102（ 0.03 ）	9（ 0.45 ）	1,385（ 0.45 ）
	RSウイルス感染症		5	15		1	3	24（ 1.20 ）	36（ 1.50 ）	2,404（ 0.80 ）	256（ 12.80 ）	40,124（ 13.03 ）
	急性出血性結膜炎							（ ）	（ ）	33（ 0.05 ）	（ ）	449（ 0.65 ）
眼科 (3)	流行性角結膜炎			1				1（ 0.33 ）	2（ 0.67 ）	537（ 0.77 ）	14（ 4.67 ）	7,281（ 10.60 ）
	細菌性髄膜炎							（ ）	（ ）	10（ 0.02 ）	1（ 0.13 ）	135（ 0.28 ）
	無菌性髄膜炎							（ ）	（ ）	6（ 0.01 ）	3（ 0.38 ）	155（ 0.32 ）
基幹 (8)	マイコプラズマ肺炎		1	2			2	5（ 0.63 ）	3（ 0.38 ）	107（ 0.22 ）	82（ 10.25 ）	3,339（ 6.96 ）
	クラミジア肺炎 （オウム病は除く）							（ ）	（ ）	1（ ）	（ ）	23（ 0.05 ）
	感染性胃腸炎 （ロタウイルスに限る）							（ ）	（ ）	86（ 0.18 ）	5（ 0.63 ）	721（ 1.50 ）
	計 （ARIを除く）	4 （ 1.33 ）	44 （ 9.82 ）	121 （ 14.83 ）	33 （ 11.25 ）	28 （ 11.00 ）	55 （ 16.43 ）	285 （ 12.54 ）		47,728	14,645 （ 458.72 ）	1,440,671
前 週 （ARIを除く）		18 （ 7.00 ）	94 （ 12.40 ）	127 （ 12.27 ）	34 （ 12.75 ）	46 （ 15.25 ）	49 （ 13.71 ）		368 （ 12.33 ）			

*ARIの定義：医師が感染症を疑う外来症例で、かつ発症から10日以内の急性症状（咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれかつ以上）を呈している症例

注（ ）は定点当たり人数

*ARIの集計法：上記症状の患者を集計するため、インフルエンザやCOVID-19、咽頭結膜熱等の患者と重複している場合があります

高知県感染症情報（49定点医療機関） 定点当たり人数

第15週

定点名 (定点数)	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前 週	全国（14週）	高知県（15週末累計） R6/12/30～R7/4/13	全国（14週末累計） R6/12/30～R7/4/6
急性呼吸器 感染症 (38)	急性呼吸器感染症(ARI)*	16.67	35.43	30.54	35.75	13.25	21.29	27.37			27.37	
	インフルエンザ	1.00	1.00	0.69		1.25	0.29	0.68	0.70	1.20	201.68	120.79
	新型コロナウイルス 感染症	0.33	1.57	1.46	5.25	1.75	2.14	1.95	2.84	2.14	96.39	66.82
小児科 (20)	咽 頭 結 膜 炎		0.25	0.13		0.50		0.15	0.17	0.25	2.70	3.76
	A群溶血性レンサ球菌 咽 頭 炎		1.75	2.88	3.50	1.00	2.67	2.35	1.58	1.71	38.75	28.47
	感 染 性 胃 腸 炎		2.25	4.88	1.00	4.50	7.33	4.05	4.88	6.41	85.10	104.96
	水 疱			0.38	1.00			0.25	0.21	0.27	2.30	3.60
	手 足 口 病			0.13				0.05	0.04	0.04	1.90	1.06
	伝 染 性 紅 斑		0.50	1.00		1.50	1.00	0.80	0.29	0.63	13.70	9.90
	突 発 性 発 疹								0.04	0.22	2.90	2.63
	ヘルパンギーナ									0.01	0.05	0.12
	流行性耳下腺炎		0.25		0.50			0.10	0.08	0.03	0.45	0.45
	RSウイルス感染症		1.25	1.88		0.50	1.00	1.20	1.50	0.80	12.80	13.03
	急性出血性結膜炎									0.05		0.65
眼科 (3)	流行性角結膜炎			1.00				0.33	0.67	0.77	4.67	10.60
	細菌性髄膜炎									0.02	0.13	0.28
	無菌性髄膜炎									0.01	0.38	0.32
基幹 (8)	マイコプラズマ肺炎		1.00	0.40			2.00	0.63	0.38	0.22	10.25	6.96
	クラミジア肺炎 （オウム病は除く）											0.05
	感染性胃腸炎 （ロタウイルスに限る）									0.18	0.63	1.50
	計 （ARIを除く）	1.33	9.82	14.83	11.25	11.00	16.43	12.54			458.72	
前 週 （ARIを除く）		7.00	12.40	12.27	12.75	15.25	13.71		12.33			

*ARIの定義：医師が感染症を疑う外来症例で、かつ発症から10日以内の急性症状（咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれかつ以上）を呈している症例

*ARIの集計法：上記症状の患者を集計するため、インフルエンザやCOVID-19、咽頭結膜熱等の患者と重複している場合があります

疾病別・年齢別報告数

高知県感染症情報（49定点医療機関）																	疾病別・年齢別報告数										2025年		15w	
定点 (定点数)	疾病名等	合計	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上																
急性呼吸器感染症 (38)	急性呼吸器感染症 (ARI)*	1,040	79	327	129	93	22	34	52	45	55	45	72	87																
定点 (定点数)	疾病名等	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上								
急性呼吸器感染症 (38)	インフルエンザ	26			1	2	2	1		4	2	1		7				2			1	3								
	新型コロナウイルス感染症	74		2	2			1						3	1	3	13	3	12	9	12	13								
定点 (定点数)	疾病名等	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳以上														
小児科 (20)	咽頭結膜熱	3			1		1	1																						
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	47			1	3	4	4	4	3	7	8	3	5		5														
	感染性胃腸炎	81	1	3	10	7	12	11	8	1	5	2	3	11	1	6														
	水痘	5				1						1	2	1																
	手足口病	1				1																								
	伝染性紅斑	16				2	3	7	2	1	1																			
	突発性発疹																													
	ヘルパンギーナ																													
	流行性耳下腺炎	2							1		1																			
	RSウイルス感染症	24	3	9	6	4	1							1																
定点 (定点数)	疾病名等	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上									
眼科(3)	急性出血性結膜炎																													
	流行性角結膜炎	1											1																	
定点 (定点数)	疾病名等	合計	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上												
基幹(8)	細菌性髄膜炎																													
	無菌性髄膜炎																													
	マイコプラズマ肺炎	5		1	1	2							1																	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)																													
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)																													

*ARIの定義：医師が感染症を疑う外来症例で、かつ発症から10日以内の急性症状（咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上）を呈している症例

*ARIの集計法：上記症状の患者を集計するため、インフルエンザやCOVID-19、咽頭結膜熱等の患者と重複している場合があります

病別年次報告数推移グラフ(急性呼吸器感染症定点・小児科定点・眼科定点)

高知県感染症情報 疾病別年次報告数推移(2025年 第15週)

